

阿部外務大臣政務官
ジュネーブ軍縮会議演説
平成 25 年 2 月 26 日

議長、
トカエフ事務局長、
御列席の皆様、

本日、ジュネーブ軍縮会議（CD）の場に立つ機会を頂いたことを大変光栄に思います。CD を長年の停滞から再活性化させるための議長の努力を強く支持します。

軍縮・不拡散は我が国が最も重視する政策分野の一つです。昨年 12 月に就任した岸田外務大臣は広島出身であり、就任会見で「核軍縮に関しては積極的に取り組んでいきたいと強く考えております」と述べました。自分も大臣と共に真剣に取り組んでいく所存であり、その姿勢を示すため CD に参りました。

現在の国際社会は、軍縮・不拡散をめぐる多くの困難な問題に直面しています。これを打開するためには、特に、各国の政治レベルが一層関心と関与を深めるべきです。

議長、

（北朝鮮による核実験）

先般、北朝鮮が核実験を強行したことは、核兵器不拡散条約（NPT）を中心とする国際的な軍縮不拡散体制に対する重大な挑戦であり、北東アジア及び国際社会の平和と安全を著しく損なうものとして断じて容認できません。また、19 日に北朝鮮が CD 本会議において韓国に対して行った発言は、国際社会における由緒ある多国間軍縮交渉機関での発言として極めて不適切であり、我が国として受け入れられるものではありません。北朝鮮に対し、関連する国連安保理決議の即時かつ完全な履行を強く求めます。また、拉致、核、ミサイルといった諸懸案の包括的な解決に向け具体的な行動をとるよう、改めて北朝鮮に強く求めます。

議長、

核軍縮においては、核保有国による一方的、あるいは二国間の取組が重要ですが、我が国は、特に、核兵器を持たない国の声を反映しながら多国間の取組を進めることを重視しています。この点、唯一の多国間軍縮交渉機関である CD が、16 年もの間停滞している状況を改めて詳しく知り、驚きの念を隠せません。ハンガリー議長国による作業計画採択に向けた努力にもかかわらず、この度も採択が実現しなかったことを深く憂慮します。

昨年末、国連総会において、多国間軍縮交渉前進に関するオープンエンド作業部会、核軍縮に関する国連総会ハイレベル会合、兵器用核分裂性物質生産禁止条約（FMCT）に関する政府専門家会合といった、国連総会の枠組みで軍縮の問題についての議論を行う会合の開催を決めた決議が複数採択されました。これらに共通することは、CD の長い停滞に対する国際社会の苛立ちが具体的な形を伴って現れたということではないでしょうか。

多国間軍縮交渉の次の論理的ステップがFMCTであることは、国際社会の幅広い理解と支持があります。それにもかかわらず、CDで長年にわたって交渉が開始されていないことは理解に苦しみます。特に、近年の深刻な財政状況下で重い負担を負わされている各国国民の目線からすれば、状況を打開するためには何らかの代替案を真剣に模索せざるを得ない、との考えに至るのは自然なことでしょう。各国代表に対し、改めて覚悟をもって問題解決に当たることを呼びかけます。

議長、

核軍縮を進めるためには、「核兵器のない世界」というビジョンを高く掲げつつも、そこに至る具体的なステップを提案していくことが必要です。我が国は、これまでも現実的かつ着実な外交努力を積み重ねてきました。

志を共有する国々と立ち上げた軍縮不拡散イニシアティブ（NPDI）もその一つの例です。NPDIは、行動志向的なグループであり、核戦力の透明性向上のための報告フォームなど具体的な提案を引き続き行い、軍縮・不拡散の推進に貢献していく考えです。冒頭申し上げたとおり、かかる取組には政治的推進力が不可欠であり、我々10か国は、大臣レベルでグループの活動にコミットしています。

議長、

我が国は、唯一の戦争被爆国であり、核兵器使用がもたらす人道的影響を身をもって経験してきました。3月にオスロで開催される会議では、我が国専門家を含め、積極的に参加・貢献をしていきます。また、軍縮・不拡散教育を通じ、核兵器使用がもたらす人道的影響を世界に、また次の若い世代に伝達し、理解を深めてもらうことにより、核兵器のない世界に向けた礎を着実に築いていく所存です。広島、長崎の惨禍を再び繰り返してはなりません。昨日、国連欧州本部に設置された原爆常設展を拝見しました。この展示が核兵器使用の惨禍の実相に対する理解の促進に繋がり、軍縮に向けた国際社会全体による取組強化の必要性に対する認識が更に深まることを期待します。核軍縮の最前線にいる皆様におかれましても、是非足を運ぶよう、お勧めいたします。

御静聴ありがとうございました。